

# 杉並区

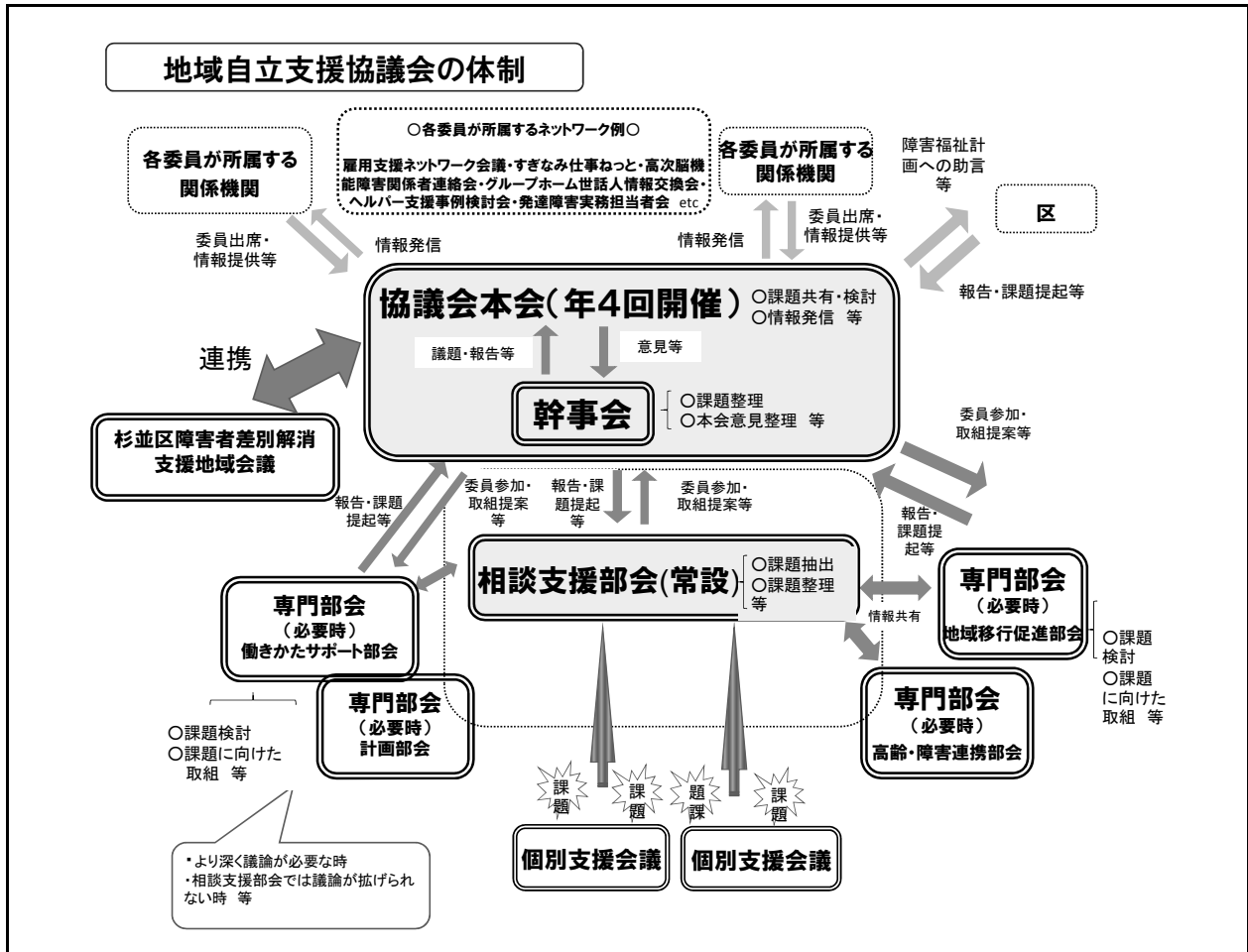
【名称】杉並区地域自立支援協議会

【ホームページURL】 <https://www.city.suginami.tokyo.jp/normalife/shisetsu/shienho/1008812.html>

【設置年月】平成19年4月

【運営方法】直営

【組織図】



## 【相談支援体制の整備状況】

基幹相談支援センター数	委託相談支援事業所数	指定一般相談支援事業所数		指定特定相談支援事業所数	指定障害児相談支援事業所数
		地域移行支援	地域定着支援		
0	3	8	6	41	26

## 【地域生活支援拠点等の整備状況】

整備状況	整備時期	整備類型
整備済	令和3年3月	面的整備型

## 【日中サービス支援型共同生活援助の有無】

日中サービス支援型共同生活援助の有無

開設の有無	開設時期
なし	—

## 【全体会及び専門部会の活動回数及び委員数】

全体会の活動回数及び委員数

全体会	
回数	委員数
2	23 (3)

専門部会の活動回数及び委員数

部会名	回数	委員数
相談支援部会	0	19 (3)
地域移行促進部会	0	14 (1)
働きかたサポート部会	1	12 (4)
高齢・障害連携部会	2	15 (2)

※「委員数」の（ ）：障害当事者（本人）で委員に就任されている方の人数（再掲）

## 【全体会の委員構成及び活動内容】

### （１）委員構成

種別	人数	種別	人数	種別	人数
学識経験者	1	医療関係者	1	保健所	0
教育関係機関	2	雇用関係機関	1	企業	0
障害当事者・家族・関係団体	5	身体・知的障害者相談員	0	相談支援事業者	7
障害福祉サービス等事業者	3	社会福祉協議会	1	法曹関係者	0
民生委員・児童委員	0	地域住民	0	行政職員（区市町村）	0
行政職員（都）	0	その他	2		
合計	23				

### 委員名簿

No.	役職	氏名	所属	種別	備考
1	会長	高山 由美子	ルーテル学院大学	学識経験者	
2		奴田原 直裕	こもれびカウンセリングルーム	障害当事者・家族・関係団体	
3		能勢 豊	ピア相談員（すまいる高井戸）	障害当事者・家族・関係団体	
4		木村 晃子	パーソルサンクス(株)	障害当事者・家族・関係団体	
5		小野寺 肇	都立中野特別支援学校（高等部）	教育関係機関	
6		島田 裕次郎	都立永福学園肢体不自由教育（高等部）	教育関係機関	
7		平 由美	杉並区社会福祉協議会	社会福祉協議会	
8		川口 理恵子	杉並区障害者雇用支援事業団	雇用関係機関	
9		吉本 光希	社会福祉法人同愛会 東京事業本部（杉並地域）	障害福祉サービス等事業者	
10		中元 直樹	精神障害者地域生活支援すぎなみ会議（グループホームネスト）	障害福祉サービス等事業者	
11		白瀧 則男	社会福祉法人いたるセンター（グループホーム）	障害福祉サービス等事業者	
12		相田 里香	ケアマネ協議会	その他	高齢分野
13		山崎 恵	地域包括支援センター（ケア24阿佐谷）	その他	高齢分野
14		継 仁	杉並区医師会	医療関係者	
15	副会長	寺西 宏晃	すまいる菟窪	相談支援事業者	
16		石井 真由美	すまいる高円寺	相談支援事業者	
17		春山 陽子	すまいる高井戸	相談支援事業者	
18		下田 一紀	すぎなみ相談支援連絡会（杉並障害者自立生活支援センターすだち）	相談支援事業者	
19		修理 美加沙	すぎなみ相談支援連絡会（やどり木）	相談支援事業者	
20		早野 節子	すぎなみ相談支援連絡会（相談支援事業所かすみ草）	相談支援事業者	
21		小佐野 啓	あおばケアセンター	相談支援事業者	
22		永田 直子	障害者団体連合会	障害当事者・家族・関係団体	
23		荒井 重子	障害者団体連合会	障害当事者・家族・関係団体	

## (2) 活動内容

令和2年度は令和元年度から引き続きの委員構成で「意思決定支援」をテーマに本会（全体会）及び専門部会を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定を大幅に変更せざるを得ない状況となり、本会を2回しか開催できなかった。コロナ禍における通所や外出の自粛など、障害者の生活への影響も大きかったことから、コロナ禍における対策や工夫などについて委員へのアンケートを実施し、アンケートの集計結果について課題の共有を行った。地域生活支援拠点の整備の進捗を報告し、意見を聴取してブラッシュアップしながら拠点の整備を行った。障害福祉計画の策定にあたり、書面が中心となったが委員への情報提供と、意見聴取を行う機会を持った。また、本会の開催方法についても、書面やオンライン開催とするなど、工夫しながら開催した。今後、新しい協議会の在り方についても見直す必要が出てきている。自立支援協議会の活動を紹介するシンポジウムを毎年開催していたが、今年度は新型コロナの拡大により開催することができなかったため、活動紹介のパネルを作成し、区のホームページで紹介した。

### 【専門部会の委員構成及び活動内容】

#### (1) 委員構成

部 会 名 種 別	相談支援部会	地域移行促進部会	働きかたサポート部会	高齢・障害連携部会
学識経験者	0	0	0	0
医療関係者	0	4	0	0
保健所	0	1	0	0
教育関係機関	1	0	1	0
雇用関係機関	1	0	2	0
企業	0	0	0	0
障害当事者・家族・関係団体	3	1	4	2
身体・知的障害者相談員	0	0	0	0
相談支援事業者	8	5	2	4
障害福祉サービス等事業者	0	1	3	4
社会福祉協議会	0	0	0	0
法曹関係者	0	0	0	0
民生委員・児童委員	0	0	0	0
地域住民	0	0	0	0
行政職員(区市町村)	5	2	0	2
行政職員(都)	0	0	0	0
その他	1	0	0	3
計	19	14	12	15

## (2) 活動内容

部会名	活動内容
相談支援部会	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全体で集まる形での開催はできなかった。相談支援部会委員にアンケートを実施し、相談支援部会のあり方やコロナ禍における相談支援の課題などについて意見の集約を行った。オンラインの活用も含め、感染防止対策をしながら開催してほしいとの意見が多かったため、次期の活動に活かしていく方向。シンポジウムの開催はできなかったが、自立支援協議会の活動紹介として相談支援部会の活動についてまとめ、区のホームページに掲載した。
地域移行促進部会	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全体で集まる形での開催はできず、精神科病院からの地域移行については、病院への訪問も制限が多かったこともあり、部会としての活動はすすめられない状況だった。自立支援協議会の活動紹介として地域移行促進部会の活動についてまとめ、区のホームページに掲載した。
働きかたサポート部会	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催回数は1回のみとなったが、「支援」「生活」「職場」「経済」について、支援者委員、当事者委員に分かれて意見を聞いた。当事者委員は「どんな職場だったら働きたい?」「どんな仲間がいたらいい?」支援者委員は「利用者にどんなアプローチをしているか?」「支援スキルを磨くには?」などについて意見交換を行った。当事者の思いと支援者がしたいこと、今できることについてまとめ、今後の支援に活かしていく。自立支援協議会の活動紹介として働きかたサポート部会の活動についてまとめ、区のホームページに掲載した。
高齢・障害連携部会	今年度は2回開催。地域包括支援センターを対象に介護保険への移行期における課題についてアンケートを実施、集計結果から読み取れる情報を共有し、移行期の支援をスムーズに行うために必要なことについて意見交換を行った。コロナ禍における現場での課題について情報共有する機会も設けた。 移行期の支援への活用を視野に入れ、介護予防・生活支援サービス事業や、いっときお助けサービス、ほっと一息サービスなど、地域包括支援センターや高齢者在宅支援課などが実施しているサービスについて情報提供を受け、知識を増やす取り組みも実施した。また、当事者委員をモデルに移行期をイメージし、具体的に必要な支援や仕組みについて意見交換を行った。 自立支援協議会の活動紹介として高齢・障害連携部会の活動についてまとめ、区のホームページに掲載した。

### 【地域協議会の活動状況】

#### 1 地域協議会の協議事項（複数回答）

##### ① 相談支援事業の運営体制に関すること

地域生活支援拠点の整備に伴い、相談支援体制の強化が必要となり、委員への情報提供や意見交換を行いながら、相談支援体制の見直しを図った。

##### ② 就労支援に関すること

働きかたサポート部会の活動を通して就労支援に関する課題の共有等を実施した。

##### ③ 地域移行・地域定着支援に関すること

地域移行促進部会の開催はできなかったが、障害者地域相談支援センターの地域移行プレ相談事業などを通して地域移行の取組を継続してきた。

##### ④ 高齢者福祉サービスとの連携に関すること

高齢・障害連携部会の取組を通して、介護保険への移行期における課題を共有し、連携強化を図った。

## ⑥ 関係機関や他分野のネットワークに関すること

相談支援部会、高齢・障害連携部会や働きかたサポート部会などの活動を通して、関係機関や他分野とのネットワーク構築を図った。

## ⑦ 社会資源の開発及び改善に関すること

コロナ禍における通所や外出の自粛など、障害者の生活への影響も大きかったことから、コロナ禍における対策や工夫などについて委員へのアンケートを実施し、アンケートの集計結果について課題の共有を行った。介護者が新型コロナ陽性になった場合の障害者等に対する生活支援事業や事業者への支援について、情報提供や意見交換を行った。

## ⑧ 障害者差別解消法や条例、権利擁護に関すること

毎年、障害者虐待の通報件数や分析結果について全体会（本会）にて報告している。

## ⑨ 地域生活支援拠点等の整備に関すること

地域生活支援拠点の整備の進捗状況を本会で報告し、意見を聴取してブラッシュアップしながら拠点の整備を行った。

## ⑩ 障害福祉計画等に関すること

障害福祉計画の策定にあたり、書面等により本会への情報提供を行い、意見聴取する機会を持った。

## ⑪ 地域自立支援協議会の運営に関すること

本会の運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、予定していた内容の協議はすすまなかったが、一方でコロナ禍における課題について共有する機会を設けたり、密を避けるためにオンラインでの開催とするなど、工夫しながら運営を行った。

## 2 地域協議会としての役割（複数回答）

## ① 情報の顕在化

障害福祉計画の進捗状況や地域課題の共有など、協議会を通して明らかになる情報も多い。各部会で抽出された課題については、本会でも議題にあげ、論議することができるようにしている。

## ② 情報共有・情報発信

協議会本会の資料や議事録については、区のホームページに掲載し、広く区民に公開している。本会については一般区民の傍聴も可としている。また、年1回「自立支援協議会シンポジウム」を開催し、協議会の活動紹介とともに、「障害者の地域での自立生活を考える」というパネルディスカッションを開催している。障害当事者に登壇していただき、就労、地域移行などのテーマでパネルディスカッションを行っているが、今年度はコロナ禍で開催できなかったため、自立支援協議会の活動をパネルにして、区のホームページに掲載し、情報発信を行った。

## ③ 分野を越えてのネットワークの構築

本会委員には多岐に渡る分野の委員に参加していただき、課題に対してそれぞれの分野からの意見やアイデアを出していただき、課題解決に向けた議論を目指している。相談支援部会、高齢・障害連携部会や働きかたサポート部会などの活動を通して、関係機関や他分野とのネットワーク構築を図った。

## ④ 各分野の社会資源の共有化及び整合性の確認

高齢・障害連携部会の活動を通して、高齢分野と障害分野の社会資源の情報を共有し、活用できる知識の蓄積を図った。

## ⑤ 地域課題の整理

地域課題については、各部会で整理した上で本会に報告、議論を投げかけるようにしているが、今年度はコロナ禍により部会の活動が停滞したこともあり、地域課題の整理が難しかった。

### ⑦ 障害福祉計画等の進捗管理や調整

杉並区障害福祉計画・杉並区障害福祉計画・杉並区障害児計画が今年度改訂となっているため、策定にあたり、書面等により本会への情報提供を行い、意見聴取する機会を持った。

### ⑧ 社会資源の開発及び改善

各専門部会では、抽出された地域課題に対して、どのような資源や支援が必要かなどについて議論を行っている。また、地域課題について、区の障害福祉計画、障害児福祉計画等に意見を反映させるよう計画部会を設置している。

### ⑨ 構成員の資質向上・研修の場

相談支援部会では昨年度は事例検討を通して意思決定支援について考える機会を設け、今年度も継続する方針だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により議論を深めることができなかった。そのため、予定を変更してアンケートを実施し、コロナ禍における課題の共有を行い、コロナ禍での相談支援の工夫などについて情報共有を行った。

### ⑩ 権利擁護・虐待防止

毎年、障害者虐待の通報件数や分析結果についても、全体会（本会）にて報告している。

### ⑪ 相談支援過程における評価（相談支援の質の評価、機関等及びそれらの連携に関する評価、施策に関する評価、政策作成に係る提言）

委託の相談支援センターの相談件数や相談支援内容等については、本会で報告し、本会委員から意見をもらうようにしている。計画相談の質については、事業所間の差があるとの意見があることから、どのように評価し、支援を行っていくかについては課題となっており、まだ取り組めていない。

## 3-1 地域協議会における地域課題

あがっている

## 3-2 地域課題の把握方法（複数回答）

① アンケート、ヒアリング等

② 全体会、専門部会、各種連絡会等

③ 個別支援会議

## 3-3 地域課題に対して取り組んだ（取り組んでいる）内容又は取り組めなかった理由等（複数回答）

### ① 相談支援の質及び量

サービス等利用計画の評価やモニタリングの評価を行いたいが、まだ取り組めていない。

### ② 社会資源の開発及び改善

強度行動障害者を受け入れてくれるショートステイやグループホームがとても少ないが、受け入れの促進に向けた取り組みができていない。

### ④ 高齢福祉分野との連携

専門部会の高齢・障害連携部会の中で高齢分野との連携について協議を行った。介護保険への移行期に課題が集中するため、移行期に必要な支援や仕組みについて整理する必要性が出てきている。

### ⑥ 緊急・災害等対応

今後、地域生活支援拠点の緊急時の対応について、具体的に緊急時対応計画の作成をすすめ、介護者が介護できなくなったときに安全に過ごせる仕組み作りをさらにすすめる必要がある。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、クラスターが発生した場合の対応などの情報共有がすすんでいない。

### 3-4 地域課題の中で、広域又は東京都全域で対応するほうが良いと考える課題

#### ② 社会資源の開発及び改善

就労している保護者の増加による放課後の居場所、通所後の居場所の確保  
小学生は学童クラブがあるが、中学生、高校生の居場所がなく、放課後等デイサービスだけでは不足している。通所施設が終わってから、保護者が帰宅するまでの居場所が不足している。

#### ② 社会資源の開発及び改善

強度行動障害者を受け入れる施設(通所、入所ともに)がない。

#### ⑥ 緊急・災害等対応

コロナ禍における支援の在り方の共有

#### ⑦ 医療的ケア

医療的ケア児の放課後の居場所、医療的ケア者(高等部卒業後)の日中活動の保障

### 4 地域協議会における当事者の参画状況

(当事者の委員がいる区市町村)

#### 4-1 多様な当事者の委員(障害や難病の種別、性別、年齢等)に参加していただくに当たり、取り組んでいること、課題になっていること

本会(全体会)だけでなく、相談支援部会や専門部会も含め、当事者委員に入っていただくようにしている。課題としては、知的障害のある委員が協議している内容を理解できるような説明をすることや、意見を述べるができるようなサポートをする必要があることがあげられる。

(地域協議会を設置している区市町村)

#### 4-2 当事者の委員だけではなく、地域で生活する多様な当事者(障害や難病の種別、性別、年齢等)の声を吸いあげられる地域協議会にするために、取り組んでいること、課題になっていること

毎年、自立支援協議会のシンポジウムを開催しており、テーマは当事者や家族も興味・関心のあるテーマを設定。また、パネルディスカッションも実施し、当事者の意見を地域に届けるなどの工夫をしている。今年度はコロナ禍によりシンポジウムの開催ができなかったが、協議会の活動についてのパネルを作成し、区のホームページに掲載。令和3年4月に区役所のギャラリーでパネル展示を行う予定